

まさくに衆愚議院云、無責任任な議員員を選んできたのは村民だ

三条新聞合流点(平成二十九年九月二十一日 木曜日)

議会の重みとは何か。村議会の様子が報じられるたびに考えさせられる。九月議会でも、競輪を含む経営改善の調査委託費四百五十万円を計上したところ「議会の重み」に反し「議会無視」だとして否決された。

議会の重み・意思は尊重されるべきであるが「臭いもの(疑惑)に蓋をする」ことや「社会常識から極端にかけ離れたこと」を議決しても、議会の重みと言えるのか凡人には理解できない。

村長のやることは何でもキライとばかりに、大局を見ずに特定の人への利益誘導や代弁者として発言する議員に牛耳られた弥彦村議会とは？。

事例を上げよう。二百八十万円の公金不正使用が八年も放置された問題で、村長(と職員)の寄付で一件落着を凶ろうとした給与改正案を否決し

た。しかも公金不正使用を監査で見抜けず承認した議会の責任はないのか。上級庁の見解を無視して一般会計から穴埋めせよと主張する議員。責任者だった本多啓三議員はダンマリだ。

三月議会の直売所条例では、賃貸料を「無償又は時価より低い価格」としたことに、条例・規則を熟知している本多啓三氏が修正案を出した。これに自分勝手な法解釈が誤りとも気付かず堂々と主張する無知な議員。

村長・副村長が「条例に反する規則はダメ」と説明しても理解できない議会。ここでも本多啓三氏はダンマリ。三条新聞に「修正案はいじめ・嫌がらせ・妨害」(村長)と載っていた。

六月議会では、桜井郷温泉の土地売却に対して、土地造成費を加算しないで買取り価格と同一値

段で売却したことの質問があった。当時の十二月議会でも問題となったが、総務課長の本多啓三氏は「買取り価格で売却することは議会に説明済み」と答弁しているが、大谷氏の誘致発言からの議事録を何回読んでも「買取り価格で売却」とした記録を発見できなかった。議事録に記載がないことは「啓三氏の答弁が嘘」との証明である。

交渉過程や一部の議員と内々に決めたことを議会ですべて説明したと、嘘で押し通したのだろう。役場の仕事は「法」に基づいて行なうのが大前提だが、法律に反する事でも議会が議決すれば司直も手が出せないという。議会の意思が優先するのだそう。

九月議会では、監査委員の経験から競輪会計は奥深く理解できなかったと胸の内を明かし、外

部監査の必要性を論じながら否決にまわった議員がいた。

立派な議員には立派な政治。無知で腐敗した議員には腐れた政治しか期待できない(自助論)。

説得力に欠けるへ理屈発言を「議会の重み」と言い、主張が正しいと民意を笠に着て「議会軽視」とうそぶく議員。これは民主議会ではない。まさには衆愚議会である。

老朽化した公共施設・インフラ等の整備や増加する一方の福祉政策等に莫大な経費が必要となり、財政破綻を十年と予測する識者がいる。十年後には今の議員はみんな辞めている。死んでる人もいるだろう。

毎回のことだが、数人の議員は競輪会計に異状反応するのはなぜだ!。大谷氏に関係がない昨年度の調査なのに、なにゆえ反対するのか。無関係

にもかかわらず否決したのは、調査がブラックボックスに波及するとの恐れからだろうか?。村民はここに注目すべきだ。

犯罪には時効という壁があるが、村民の記憶に時効はない。長年にわたり、競輪にまともなつきおこぼれを頂いた人達。神社の恩恵にあぐらをかき「共助と自助」を忘れた人達。これらを考えた

ら財政破綻もやむなしと思うようになった。すべてリセットして出直せばよい。無責任な議員を選んできたのは村民だ。(弥彦村・いつも馬鹿を見る正直者)